

## 特集：SAA ウガンダ事務所の取り組み FOCUS ON UGANDA



Newsletter  
September 2023

### 1. ウガンダ事務所長 メッセージ

#### ～ウガンダの農業変革に向けた SAA の決意～

今月は、ウガンダ共和国に焦点を当てササカワ・アフリカ財団（SAA）の活動を紹介します。私たちは、土壌肥沃度と生物多様性に寄与する「環境再生型農業（Regenerative Agriculture）」を戦略の柱として掲げ、農家／農業普及員の能力開発を推進してきました。「農家と共に歩む」をスローガンに、農家と緊密に連携し、公的／民間の農業普及システムの強化に取り組んでいます。

また、「栄養に配慮した農業」では、栄養価の高い作物を栽培し、食生活における多様性向上、栄養不良改善を目指しています。具体的には、食品の品質と安全性、農産物加工、マーケティングなどの研修を提供するとともに、栄養価の高い食料へのアクセスを確保し、小規模農家や農業関係者の収入安定を支援しています。

「市場志向型農業」では、バリューチェーンの強化、市場アクセスの確保、収益性あるアグリビジネスへの参入を支援し、農家のビジネスマインドの醸成と経済的安定の確保に貢献しています。

ウガンダにおける成功例として、ワンストップ・センター（One Stop Centre Association: OSCA）の取り組みがあります。同施設は、地域の多目的農業協同組合により運営され、共同集出荷や農産物加工施設や貯蔵設備の共同使用による収益性の向上、研修を通じた農業技術・起業家精神育成など様々なアプローチで、地域の農家のキャパシティービルディングを行っている他、人々が手ごろな価格で必要な農業関連サービスにアクセスできる仕組みを構築しています。現在、日本外務省の支援により、新たにウガンダ 2 県（コレ県・ナパク県）にワンストップ・センターの建設が進行しています。

こうした、ウガンダの農村コミュニティで見られる確かな変革は、私たち SAA スタッフとともに尽力するパートナー、その活動を支援するドナー、そして、ウガンダの食料システムの変革を目指す農家や関係者の揺るぎない貢献の証です。本号では、ウガンダにおける活動の軌跡を辿り、SAA の活動が社会にもたらすポジティブな影響を紹介したいと思います。

末筆になりましたが、農家、地域社会、政府機関、ドナー、パートナーの皆様の揺るぎないご支援に、心より感謝申し上げます。私たちは、ウガンダの成長と繁栄を願い、強靱で持続可能な食料システムの構築を目指して今後も邁進していく所存です。

SAA ウガンダ事務所長 デビッド・ウォゼンバ

※本ニュースレターは、英語版オリジナル(URL: <https://saa-safe.org/newsletter/september-2023/>)の翻訳版となります。

## 本号の内容

### 1. ウガンダ事務所長 メッセージ

### 2. 現地からの声

共同集出荷の実現が農家の生活を一変～コロベ・アナニアさんのストーリー～／市場志向型農業が収益向上の足掛かりに～商才を開花させたアポロット・クリスティンさん～／環境再生型農業による大豆栽培に取り組むエスター・アピオさん／鉄分豊富な豆が成功の鍵～栄養豊かな食事に貢献するジョイ・カンシイメさん～

### 3. 事業活動

農作物のアフラトキシン汚染対策：ウガンダ 2 県で「アフラセーフ」を普及／ウガンダのマケレレ大学で農業普及員向け短期研修を実施／日本の外務省による支援で建設中のワン・ストップ・センター視察／JICA 海外協力隊員、ウガンダの農村で農業技術普及に貢献／「栄養の日」イベント開催：ウガンダの家族を支える包括的な栄養トレーニング／SAA ナイジェリア事務所、コメ共同集出荷拠点整備に向けた協議を開始／SAA マリ事務所、農業協同組合を金融アクセスにつなぐ

### 4. イベント

第 13 回アフリカ・フードシステム・フォーラム in タンザニアに参加／第 4 回全アフリカ・ポストハーベスト会議に運営パートナーとして貢献

## 2. 現地からの声

### 共同集出荷の実現が農家の生活を一変～コロベ・アナニアさんのストーリー～



3 年前、ウガンダの農家コロベ・アナニアさんはローンや学費の支払いに追われ、苦しい生活を送っていました。就農を決意した頃は、農業で安定した生活を得ることを思い描いていましたが、実際の営農は予期せぬ失敗の連続で、収穫はわずか、売り上げは家族を養うにはほど遠いものでした。

農業による生計を諦めかけていた 2020 年、彼は世界食糧計画（WFP）の支援により SAA が実施する農業マーケット支援（Agriculture Market Support: AMS）プロジェ

クトに参加し、新しい技術／知識と出会いました。適正農業規範（GAP）、農産物の収穫後処理、共同集出荷、マーケティングなど、後に彼の生活を一変させるアグリビジネスのスキルに触れたのです。

研修で得た知識をもとにコロベさんは、仲間の農家と協力し、収穫した農作物を共同で集荷場に出荷するようになりました。そして、共同出荷を通じて交渉力を得た結果、55 袋のメイズを 720 万 UGX（1,926.22 米ドル）という想定を上回る価格で販売することができました。

「収穫後処理やマーケティングなどの知識を得たことが、大きな転機となりました」とコロベさんは話します。

売上金により、彼は、支払いに苦慮していたローン（130 万 UGX）を完済し、子供 2 人の学費（93 万 UGX）を清算し、家計の支出（175 万 UGX）も賄えることができました。

さらに、320 万 UGX を農業の投資に回し、耕作地をメイズ 23 エーカー、ソルガム 4 エーカー、豆 5 エーカーの合計 32 エーカーに拡大しました。有機肥料を活用して化学肥料の分量を減らすことで生産コストを低く抑えるなどの工夫も凝らし、コロベさんは、今後も生産量を増加することができると思込んでいます。



## 市場志向型農業が収益向上の足掛かりに～商才を開花させたアポロット・クリスティンさん～



ウガンダの農家アポロット・クリスティンさんは、協同組合に預けていた貯蓄額を 2014 年から 2022 年の間に、12 万 UGX (32 米ドル) から、174 万 UGX (464 米ドル) まで増やすことに成功しました。

彼女は、世界食糧計画 (WFP) が支援し SAA が提供する農業マーケット支援 (Agriculture Market Support: AMS) プロジェクトに参加し、農業をビジネスとして捉えるマインドを醸成するとともに、金融リテラシーや共同マーケティングなどの知識を学びました。「SAA の研修を受講後、アビム・ウェスト農家ネットワークに参加したことで、思いもよらなかった道が開けました」と彼女は話します。

それは 2021 年、同ネットワークを通じて WFP の学校給食プログラムに、メイズ 616kg を販売し、80 万 UGX (214 米ドル) の収入を得るとともに、貯蓄額を 137 万 UGX (367 米ドル) まで増やしたことに始まります。その後、地元のマーケットでポショ (メイズ粉から作られるウガンダの主食) やパンなどを販売するなど収入源を多様化させ、その利益を貯蓄貸付組合への出資金として再投資することができました。

2022 年末現在、クリスティンさんの貯蓄は 2014 年比で 1,347% 増加し、その資金で耕牛、豚、鶏を購入するなど事業を多角化しています。

## 環境再生型農業による大豆栽培に取り組む エスター・アピオさん

ウガンダのコレ県アリトに住む農家エスター・アピオさん (40 歳) は、養鶏事業で損失が続きいていました。そ

の後、半年という短期間で収穫が可能という大豆栽培に希望を見出し、事業を転換しました。しかし、長期間にわたる干ばつの影響で、十分な収穫ができず、大豆栽培もうまくいきませんでした。「鶏の飼育で苦労した後、育てた大豆が無駄になってしまい意気消沈しました」と彼女は話します。



仲間と作業をするエスターさん (オレンジのヘッドラップ)



施肥をした圃場に大豆を播種する

エスターさんに転機が訪れたのは、友人を通じて知った SAA の「未来のための環境再生型農業プログラム」に参加した時のことです。日本財団が支援する同プログラムを通じて、彼女は仲間と共に、栽培する作物の多様化の重要性や、干ばつや病気への耐性を持ち、短期間で生育する大豆の品種について、また、環境再生型農法を学びました。

2023 年の最初のシーズン、エスターさんは SAA が推奨する MAKSOY 6N や 3N といった改良品種の大豆を栽培しました。天候を注意深く観察し、SAA の指導に従って適切なタイミングで植え付け、除草、施肥など総合的な環境再生型農法を実践した結果、8 エーカーの農場で 6,720kg





収穫した大豆を前に満面の笑みを  
こぼすエステル・アピオさん

の大豆を収穫し、1,075万2千UGXの売上を得ることができました。結果、彼女は子供たちの学費を支払うことができるようになり、アネカピリ市場に農業資材店を構えることができました。「環境再生型農業の実践を通じて、収益性の高い大豆栽培のビジネスをできるようになりました」と彼女は語ります。

## 鉄分豊富な豆が成功の鍵～栄養豊かな食事に貢献するジョイ・カンシイメさん～

「鉄分豊富な豆は栄養価が高く、特に子供や妊婦さんを中心に地元のマーケットで高い需要があります」とウガンダの農家ジョイ・カンシイメさん（48歳）は話します。彼女は鉄分豊富な豆（Iron Rich Beans）を長年栽培していますが、SAAの研修を受けてから、より大きな成功を収めることができたと言います。2022年初め、彼女は500kgの豆を収穫し、1kgあたり5千UGX（1.34米ドル）で村や近隣のコミュニティで販売しました。

「私の作る豆は、品質と栄養価の高さで人気があります」と彼女は誇らしげに話します。

同年2回目の収穫においては、700kgの豆を収穫し、そのうち600kgを自身も参加するキトゥラ・アバンウェ農家グループを通じて販売しました。収入が増えたことで、彼女は未払い金を清算し、子供たちの教育費を払い、家族に栄養のある食事を提供できるようになりました。カンシイメさんは鉄分豊富な大豆をコミュニティに提供し、人々の健康増進と豊かな生活に貢献しています。





### 3. 事業活動

#### 農作物のアフラトキシン汚染対策：ウガンダ 2県で「アフラセーフ」を普及

2023年7月25日～28日、SAAは、農作物のアフラトキシン\*汚染が続くウガンダのラカイ県とイシングロ県にて、国際熱帯農業研究所（IITA）が開発したバイオコントロール（病原菌に対する拮抗微生物、害虫に対する病原微生物や天敵昆虫、雑草に対する病原微生物など、生きた生物資材によって植物の病虫害や雑草を防除する方法。）製品である「アフラセーフ（Aflasafe）」の普及活動を行いました。

アフラセーフは、同種だが毒素を生成しない土着菌（カビ）を穀粒にコーティングし、栽培作物に散布・繁殖させることで、アフラトキシンを生成するカビの繁殖を抑えるという競合の原理を利用したバイオコントロール技術です。ガンビア、ケニア、ナイジェリアでは、31万5千ヘクタールの圃場に普及し、成功を収めています。

SAAはIITAと連携し、農家や農業普及員を対象に研修を実施し、土壌表面への適切な散布を強調するなどアフラセーフの適正使用の普及に努めています。また、アフラセーフの使用とともに土壌の健全性や生物多様性を改善する環境再生型農業の実践を推進しています。

アフラセーフ散布 実地研修の様子



Dr Juliet Akello (IITA) による講義



\*アフラトキシンとは、穀物やナッツ、乾燥果実などに寄生するカビの一部が生成するカビ毒のこと。発がん物で、世界各国で食品中の含有許容量に基準が設けられている。





## ウガンダのマケレレ大学で農業普及員向け短期研修を実施

2023年6月21日～23日の3日間、マケレレ大学農学部にて、111人（女性34人）の農業普及員（ウガンダ北部、中部、南西部の公的農業普及員や地域推進員〈Community-based Facilitator〉を含む）を対象に、倫理、プランニング、コミュニケーション、コンフリクトマネジメント、インクルーシブネスに関する短期集中研修を実施。農業普及員が地域で活動を行う上で欠かせないスキルである農家の動員やコミュニケーション、報告書の作成などの具体的なスキルを学びました。

多様なコミュニティで農業技術普及を実践するにあたっては、技術的なノウハウに加え、対人関係や組織的なスキルなどを含む包括的なアプローチが不可欠です。技術／知識と実践のギャップにおける課題を解決するには、コミュニティの信頼と協力を得ることが重要だからです。

フィールドでの研修では、ロールプレイやグループ活動を取り入れた実践的なアプローチも組み込まれ、研修の最後には、農畜産水産省職員の立ち合いのものと、研修生に修了証書が授与されました。



終了証を受け取る農業普及員



メル・オルオチ戦略パートナーシップ事務所長による講義





## 日本の外務省による支援で建設中のワン・ストップ・センター視察



2023年8月、ナパク県の県職員サイモン・ピーター・ロンドンゴコル氏（生産・マーケティング担当）が、世界食糧計画（WFP）と日本外務省が支援するSAAのプロジェクトサイト（アペトリム地区）を訪問しました。同プロジェクトは、ウガンダ コレ県とナパク県の2か所で整備する多目的農業協同組合「ワンストップ・センター（One Stop Center Association: OSCA）」の強化を目的としており、今回訪問したナパク県のOSCAでは、事務所、貯蔵庫、パソコン、灌漑施設、メイズ粉碎機などが整備される予定です。

今回の視察では、SHEP（市場志向型農業振興）アプローチを通じた小規模農家の生計向上にかかる設備の整備状況が確認されました。ロンドンゴコル氏は、品質や安全基準の確立、農家や普及員の技術研修や市場アクセスの確保などの重要性を強調し、同施設が地域に大きなインパクトをもたらすだろうと述べるとともに、自治体が継続して支援することを約束しました。



## JICA 海外協力隊員、ウガンダの農村で農業技術普及に貢献



2023年6月、野菜／コメの栽培を専門とするJICA 海外協力隊員の中村信駿さんが、ウガンダのナカセケ気候変動対応技術展示村（Climate Smart Village: CSV）に到着しました。

中村さんは、農業の専門性を生かし、ウガンダの農家のニーズに個別に応えるオーダーメイドのアプローチを通じて、地域の農業事業に貢献したいと考えています。

中村さんの活動は、農業技術の普及を超えて、日本とウガンダの文化交流、相互理解の促進にも貢献しています。



## 「栄養の日」イベント開催：ウガンダの家族を支える包括的な栄養トレーニング

2023年6月22日～28日、SAAはウガンダのオトゥケ県、コレ県、ラカイ県、イシングロ県で、栄養に焦点を当てた「栄養の日」イベントを開催し、各県より農家や地域住民など約200人が参加しました。同イベントでは、地元農家が生産した多様な農産物と栄養価の高い食事が並べられ、栄養の大切さや、多様な食事が健康にもたらす恩恵について紹介されました。

「栄養の日」は、単なる食の祭典という枠を超え、情報交換やネットワーキング、地域社会の連携に大きな役割を果たしました。調理の実演では、衛生面に気を付けながら、地元の食材を日々の食事に取り入れることの大切さが伝えられました。

参加した人々には、栄養学、改良農法、農産物加工、ポストハーベスト、ジェンダーなどを網羅したリーフレットが配布されました。

リーフレットを手にする農村の女性たち



栄養豊富な食事について熱心に聞く地域住民





## エチオピア事務所が高品質な種子生産を支援



SAA エチオピア事務所は、145 人（女性 32 人）の農家グループを対象に、小麦種子栽培の生産技術向上を支援しています。同グループは、SAA が以前 181 人の普及員（35 人の女性）と共に研修を実施した 856 人の農家（377 人の女性）の一部で、高品質の種子を生産する技術（病虫害の防除方法）、品質検査の手順や規制に関する研修（品種の純度維持、種子の適切な含水率と重量を確認する方法等）を受けています。

SAA は、この 145 人の生産者が 41.35 ヘクタールの土地で 4 つの種子生産クラスターを設立するのを支援しました。具体的には：

- メケット地区タグバ・メスケルとコキット村では、それぞれ、43 人の農家（女性 8 人）が 10.5 ヘクター

ル、22 人の農家（女性 5 人）が 7.1 ヘクタールの圃場で栽培

- アンガチャ地区ケレキチョ村では、60 人（女性 16 人）の農家が 13.75 ヘクタールの圃場で栽培
- アナ・ソラ地区エルバ・ブリヨ村では、20 農家（女性 3 人）が 10 ヘクタール圃場で栽培

種子規制当局と組合は、一連の生産プロセスが種子生産と認証に関するガイドラインを遵守していることを確認するため、現場での検査に積極的に取り組んできました。こうして生産される種子は、SAA が関係機関と共に構築してきた販路を通じて販売先が確保されます。

1 ヘクタール当たりの平均収量を 3.5 トンとすると、4 グループによる今年度の小麦種子の総生産量は約 144.7 トンとなる見込みです。これらの種子栽培は、地域の経済と食糧安全保障に貢献しています。

## SAA ナイジェリア事務所、コメ共同集出荷拠点整備に向けた協議を開始

2023 年 8 月 7 日、SAA ナイジェリア事務所のゴッドウィン・アサー所長と東京本部職員は、ナサラワ州農業開発プログラム（NADP）を訪問し、ラフィア郡に位置する 2 つのコメ共同集出荷拠点（アグリゲーション・センター）の整備にかかる協議を行いました。

コメ共同集出荷拠点 合同視察の様子





同施設の整備は、日本外務省の資金提供によるプロジェクトの一環で、コメの加工機械をはじめとする施設のインフラ整備、また、市場アクセス、農産物加工、コミュニティ貯蓄などのマーケティング機能の強化、気候変動に強いコメの栽培方法の導入などを目的としています。地域の伝統的指導者は、SAA の農業支援への貢献を称え、SAA 職員に称号 "Sarkin Noma" の称号を授与し、感謝の意を表しました。

※こちらから、記事全文をご覧ください。

<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=1&vid=496&lng=jpn>

## SAA マリ事務所、農業協同組合を金融アクセスにつなぐ

SAA マリ事務所による研修を受講した 5 つの「アグリビジネスへの投資のためのコミュニティ貯蓄組合 (Community Saving for Investing in Agribusiness:

CSIA) 」グループのうち 4 つが、ニェシギソ マイクロファイナンス機関に開発融資を申請し、受理されました。

マリのシラニコト、ドゥンバジラ、ヘレマコノ、ディアワラブゲー、バダラブゲーの各村から選ばれた 5 つの組合のメンバー 50 人が、SAA とニェシギソが共同で開催した研修を受け、CSIA の概念、貯蓄の目的、資金計画などについて学びました。

ニェシギソの講師は、農家が利用できる様々な商品について説明し、「農村女性向け農業融資」や「農機具投資のための融資」などの具体的なスキームも紹介されました。

また、融資には希望額の 13% 以上の預金が必要となることなど審査基準についても説明が行われました。審査を通過すると、同機関では、年利 18% で融資を受けることができます。



研修を受けた CSIA グループの農家たち



## 4. イベント

### 第13回アフリカ・フードシステム・フォーラム in タンザニアに参加



2023年9月5日～8日、タンザニアのダルエスサラームにて、第13回アフリカ・フードシステム・フォーラム(AGRF)が開催され、SAAからはルース・オニアンゴ名誉顧問、北中真人理事長、白戸圭一理事らが参加しました。本フォーラムは「回復、再生、行動：食料システムの変革に向けたアフリカのソリューション "Recover, Regenerate, Act: Africa's Solutions to Food Systems Transformation"」をテーマに、革新的な農業とフードシステム戦略、気候変動の緩和、若者と女性のエンパワーメントに焦点を当て議論が展開されました。また、アフリカの食料システムを変革するために、コレクティブアクション(協働)と革新的な解決策が緊急に必要であることが強調されました。

北中理事長は、アフリカ農業変革のための科学技術プログラム(TAAT)、国際熱帯農業研究所(IITA)、

Excellence in Agronomyが共催するテクニカル・セッションでスピーチを行いました。また、SAAの展示ブースは、新たなネットワークの拡大やパートナーシップ構築の貴重な場となりました。本フォーラムを通じて、環境再生型農業、栄養に配慮した農業、市場志向型農業に対するSAAのコミットメントが新たになりました。

※こちらから、記事全文をご覧ください。

<https://www.saa->

[safe.org/news/news.php?nt=1&vid=500&lng=jpn](https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=1&vid=500&lng=jpn)

### 第4回全アフリカ・ポストハーベスト会議に運営パートナーとして貢献

2023年9月19～22日、エチオピアのアディスアベバにて、第4回全アフリカ・ポストハーベスト会議(The 4th All Africa Postharvest Congress and Exhibition: AAPHCE)が開催され、SAAは運営パートナーの一員として開催に貢献しました。オランダ王国大使館と共催したサイドイベントでは、ワーゲニンゲン大学教授らが参加する中、SAAは持続可能なポストハーベスト管理における能力開発の重要性(ポストハーベスト関係者の能力向上や農業普及のデジタル化)の議論を主導しました。

「持続可能なポストハーベスト管理：アフリカ域内農産物貿易の促進と食料・栄養安全保障の強化」をテーマとした本会合では、戦略的パートナーシップ事務所長のメル・オルオチが、SAAの戦略やポストハーベストに関する取り組みを講演。パラレルセッションでは、ウガンダ事務所のジャクリン・ナムサリシ、ナイジェリア事務所のヤファザ・ヤハヤがそれぞれの国で取り組む農業技術を紹介しました。

